Ⅳ　愛知県図書館の歩み

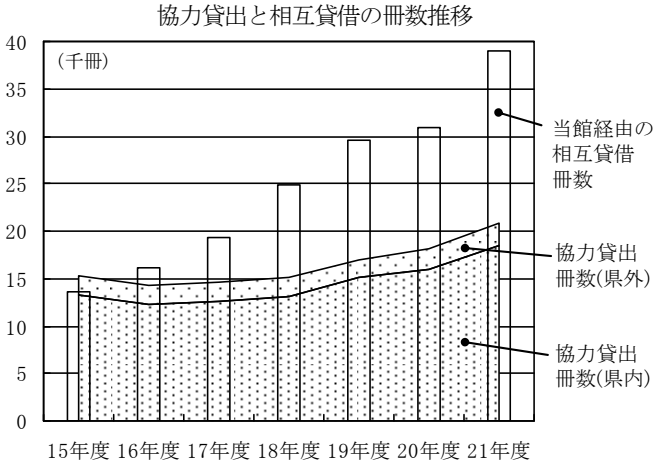
昭和 27（1952）年 4 月	講和記念事業文化施設基本計画樹立委員会設置
昭和 34（1959）年 4 月	愛知県文化会館愛知図書館開館
平成 3（1991）年 3 月	愛知県文化会館愛知図書館閉館
平成 3（1991）年 4 月	愛知芸術文化センター愛知県図書館開館
平成 6（1994）年 4 月	宅配便による市町村図書館との間の資料搬送を開始
平成 11（1999）年 3 月	特許公報類地方閲覧所の指定解除
平成 12（2000）年 3 月	移動図書館（ブックモビル）の廃止と貸出文庫の開始（4 月）
平成 13（2001）年 3 月	インターネット蔵書検索の公開
平成 14（2002）年 4 月	ＡＶ（視聴覚）資料の貸出開始、図書貸出を 3 冊 15 日から 6 冊 22 日に
平成 15（2003）年 1 月	県内公共図書館横断検索システム「愛蔵くん」の公開
平成 17（2005）年 3 月	貸出返却業務の 1 階カウンターへの集中化とレファレンス体制の強化、ビジネス情報コーナー、ティーンズコーナーの設置
平成 18（2006）年 3 月	多文化サービスコーナーの設置
平成 19（2007）年 3 月	インターネットによる貸出中図書予約、利用状況照会の開始
平成 22（2010）年 1 月	貸出中ＡＶ資料の予約受付開始（本格開始 4 月）

Ⅴ　平成 21 年度の主要な事業動向

1　市町村立図書館等を介したサービスの状況

(1) 協力貸出、市町村立図書館間の相互貸借

21 年度の愛知県図書館サービス計画では、前年度に続き、特に重点をおいて取り組むサービスの一つとして、「市町村立図書館と連携し、県図書館の資料を全ての県民に届けます。」を掲げ、その目標値を「市町村立図書館への図書セット提供件数　5 件」「協力貸出冊数＋県を経由した借り受け冊数 47,000 冊(前年比 105%)」とした。



市町村立図書館への図書セットの提供は貸出にはいたらなかったが、作成した企画案により岡崎市立中央図書館等で所蔵資料を使った 2 企画と関連の講演会が実施された。

21 年度の県内図書館への貸出冊数は 18,558 冊（前年比 115.8%）、県を経由した相互貸借冊数は 38,912 冊（同 125.9%）で合計 57,470 冊（同 122.5%）となり、大きく目標を上回ることができた。県外図書館への貸出冊数は 2,263 冊で 20 年度の 2,112 冊に比べ 7%増加した。

(2) 市町村立図書館に対する人的サービス

図書館の設置や新館の建設を検討する市町村に対し、情報の提供や職員の参画を含めた支援を行った。19 年度から 21 年度まで、岡崎市の図書館に職員 1 名を派遣した。

市町村立図書館支援の一環として県内各団体主催の研修会へ、職員を講師として派遣している。21 年度は県内で実施された研修会等へ延べ 12 名の講師を派遣した。また、東浦町立図書館の求めに応じ、資料補修の研修を愛知県図書館で行った。

(3) 大学図書館、高校図書館等との連携

愛知、岐阜、三重、静岡県内の公立図書館と大学図書館により館種を超えた連携・協力を進めるため設立された東海地区図書館協議会に理事館として参加している。同協議会の「資料相互利用協定」参加の大学図書館に 376 冊の資料を貸し出した。また 50 冊の資料を借り受け、複写 3 件を依頼した。名古屋大学、名古屋市立大学、南山大学の図書館と愛知県図書館の間で、平成 18 年 5 月から開始した定期搬送便の実証実験を 21 年度も継続した。この搬送便を利用した公立図書館から大学図書館への貸出は 538 冊（前年比 124%）、借受は 158 冊（同 73.1%）となり、貸出は引き続き増加している。

高等学校を中心に、学校図書館への支援サービスを引き続き実施した。うち高等学校への協力貸出冊数は 5 校 162 冊であった。他に出張ブックトークを 1 校で実施し、インターンシップを 1 校、図書館ツアー（館内見学）を 2 校受け入れた。

(4) ないーぶネットとの連携

21 年 7 月、全国視覚障害者情報提供施設協会が運営する情報ネットワーク「ないーぶネット」に加入した。それまで視覚障害者資料室では、作成した録音図書の書誌情報を国立国会図書館の「点字図書・録音図書全国総合目録」に提供してきたが、加入後は、録音図書の着手情報・完成情報を同ネットへも掲載するようになった。これにより、参加する各施設からオンラインでのリクエストが受け付けられるようになり、相互貸借による貸出タイトル数は、281（前年度 38）と大幅に増えた。借受タイトル数も、2,085（前年度 1,633）と伸びている。現在は、書誌情報の提供のみであり、ネットワークを活用したサービスの拡大が今後の課題である。

なお、「ないーぶネット」は、22 年 4 月から「びぶりおネット」と統合し、「サピエ図書館」となった。

2　来館者サービスの状況

(1) 貸出、入館者、レファレンスサービス等の状況

個人貸出は、図書 474,120 冊（前年比 112%）ＡＶ資料 76,035 点（同 106%）と大きく伸びた。18 年度からの資料費の増額や館内サービスの改善に取り組んだ成果でもあるが、厳しい不況を背景に、図書館の資料を利用することで、自身のスキルアップや生活の潤いを求められているのではないかと考えられる。

レファレンスサービスも、39,094 件（同 109%）と高い伸びを示している。カウンターで相談を待つだけではなく、積極的に資料紹介を行うパスファインダー「調べ方ガイド」の作成を開始した。利用者からの問い合わせの多い事項にテーマを絞って、所蔵資料の紹介や情報収集の方法を解説するもので、年度末までに 10 点を作成し、各階のパンフレット架に置いて自由に持ち帰れるようにしている。

利用状況を示す統計指標の多くが、前年度を上回っているにも関わらず、入館者数は減少した。開館日は、昨年度より 1 日多い 283 日だが、入館者数は前年比 3%減の 722,779 人となった。

月別にみると、7 月以降減少に転じていることから、新型インフルエンザの流行のために外出を控えられた結果とも考えられるが、インターネット等での資料の所在確認や予約資料の状況確認ができるため、確実に資料が入手できるのを確認して来館するなど、利用の方法に変化が生じていないかを見守る必要があると考えられる。

(2) ＡＶ資料の予約の開始

貸出中資料の予約は、ＡＶ資料についてはそれまで受け付けていなかったが、22 年 1 月 15 日から 3 月末までを試行期間として実施した。4 月 1 日の利用規程の改正を受けて、本格運用となった。

(3) インターネットを利用したサービス

インターネットによる貸出中図書予約、利用状況照会のサービスの利用者（パスワード発行数）は、21 年度末で累計 6,850 人になった。オンラインでの予約件数は、40%増の 10,692 件で、予約全体の半数を占めた。オンライン予約の広報により、予約制度の存在が改めてＰＲされた形となり、カウンター予約分も

増加（前年比 121%）しており、オンラインでの予約分がそのまま予約件数の増加につながっている。また、貸出中のＡＶ資料の予約ができるようになったことから、今後さらに予約件数の増加が見込まれる。

ホームページ（ＨＰ）の閲覧件数と蔵書検索は、ほぼ前年並みとなった。16 年度に行ったＨＰの全面改定から 5 年が経過し、コンテンツの増加に伴い使い勝手が悪くなってきたことから、全面的なリニューアル作業を行った。カテゴリーごとのメニューをＨＰ上部に置き、よりコンテンツが探しやすくなるようにした。作業は、館内の情報発信委員会を中心に行い、22 年 4 月に公開した。

横断検索「愛蔵くん」は、15 年 1 月の公開以来、市町村立図書館に参加を呼びかけてきたが、22 年 3 月に弥富市立図書館の参加をもって、図書館を持つ全市町村(50 自治体)の検索ができることになった。その他の参加館は、県図書館をはじめとする 4 県機関である。

携帯からのアクセスも、139,457 ページビュー（前年比 140%）と増加しており、若年層を中心にインターネット利用が携帯で行われている傾向が認められる。

(4) 児童に対するサービス

利用者の関心を高めるために、新着図書やおすすめの図書を別置している。また、「植物」「昆虫」「祭り」など 2 か月ごとにテーマを変えて関連図書の展示と貸出しを行った。児童図書の貸出冊数は、前年度より 11%増の 88,361 冊で、引き続き紙芝居の貸出が好調であった。

発行物では、新着図書を紹介する『新しく入った本』（月刊）、おすすめ本を紹介する『児童室だより』（季刊）に加え、21 年度に新たに『赤ちゃん絵本おすすめリスト』『３・４歳向けおすすめ絵本』、読み聞かせ活動に携わる方のための『おはなし会で読んだ本』（年 4 回）を作成、配布した。

おはなし会は、午前を幼児向け、午後を小学生向けとして、年間 22 日 44 回行った。ほかに夏休み中のイベントとして、8 月 4 日と 5 日に、夏のおたのしみ会おはなし会を行った。小学生向けでは実験を行い、関連図書を紹介した。21 年度から、ポイントを貯める「おはなし会カード」の発行を始め、10 回参加した子どもには手作り賞品を渡すようにした。

(5) 障害者に対するサービス

視覚障害者への対面朗読は、延べ利用者数が前年度の 2 倍の 529 人で、対応した朗読者数も 311 人（前年比 173%）、朗読時間数 816 時間（同 207%）と大幅に増加した。視覚障害者資料の貸出は 1,243 タイトルで、前年に比べ僅かに減少したが、他施設からの借受けによる貸出は 2,085 タイトルで、28%の増加であった。作成した録音図書のタイトル数は、カセットテープ 6、ＤＡＩＳＹ（デイジー）23 と、ＤＡＩＳＹがカセットテープを初めて上回った。また、『視覚障害者資料室新着図書案内』第 3 号を発行した。

心身障害者への郵送貸出は、利用者数 286 人（前年比 150%）、貸出冊数 786 冊（同 130%）であった。

(6) 各コーナーの状況

ア　地域資料コーナー

地域資料コーナーは、愛知県の人・事物について書かれた資料、県内行政刊行物、その他愛知県に関する資料の幅広い収集を目指し、21 年度末現在、図書 64,113 冊、雑誌 1,123 タイトルを所蔵している。

イ　ティーンズコーナー

コーナーを設置してから 5 年が経過し、蔵書も約 6,000 冊となった。21 年 7 月からは、20 年度に期間限定で行った企画「てこぽん」（「ティーンズコーナーポイントGet 大作戦！」の略で、おすすめ本の紹介カードを書くとポイントが貯まり、図書館グッズと交換できるという利用者参加型の企画）を継続的に開催することとした。

ウ　多文化サービスコーナー

多文化サービスコーナーは、18 年 3 月の本格運用から 4 年を経過し、安定した利用が続いている。図書資料は、実用書・文学を中心に中国語・ハングル・ポルトガル語の新刊書を購入し、21 年度末現在の資料数は約 3,700 冊となっている。また、日本語学習用の資料も積極的に収集しており、この分野は特

に利用が多い。新聞・雑誌については、現在、新聞３紙（中国・ハングル・ポルトガル、各１紙）とポルトガル語のフリー雑誌を１点受け入れており、よく利用されている。

エ　ビジネス情報コーナー

コーナー開設から５年が経過したのを機に、資料配置の見直しを行った。資料数の増加した起業関連のスペースを広くし、利用の多い仕事力を高める資料については、配置換えと見出しの検討を行い、資料の充実を図り、利用しやすくリニューアルした。展示「ビジネスに活かせ、知的財産権！」の関連講座「著作権はじめて講座」は、当館職員を講師として行った。昨年度から始めたセミナー「プロフェッショナル仕事図鑑」は３回開催し、連続講座として定着した。そのうち２回は企画展示の関連行事として開催したこともあり、関心が高く、参加者が定員 40 名を上回ったこともあった。

(7) 返却スリップの広告の導入

歳入確保策として検討を進めてきた広告の導入を、22 年３月から開始した。貸出時に渡す返却スリップの裏面に広告を印刷して納品していただく方式で、返却スリップの作成費の削減となる。

３　資料の収集

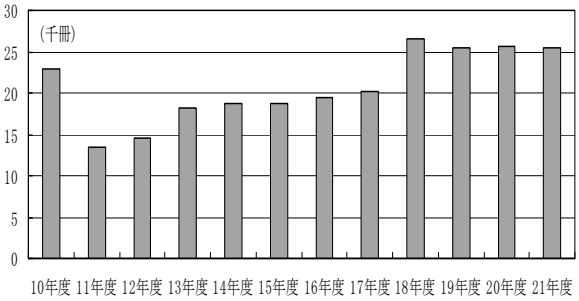
(1) 資料選択基準の改訂

21 年度は、「愛知県図書館資料収集方針」に基づき、具体的な選択基準「愛知県図書館資料選択基準」(20 年度策定）に重点サービス部門を追加改訂した。「愛知県図書館資料収集方針」と「愛知県図書館資料選択基準」は、22 年４月から当館ＨＰに掲載している。

(2) 図書の収集状況

21 年度は、合計 25,473 冊の図書を受け入れた。その内訳は、購入による受入が和書 20,945 冊、洋書 235 冊、計 21,180 冊。寄贈による受入が和書 3,767 冊、洋書 286 冊、計 4,053 冊。貸出文庫用図書からの管理区分の変更による受入が 240 冊であった。全体の受入冊数は前年度並みで、18 年度以降４年連続して 25,000 冊程度の水準を保っているが、備品費の削減により、高額の図書の購入を厳選した。

図書受入冊数の推移



(3) 新聞雑誌の状況

21 年度は、沖縄地方の新聞を新規に受け入れた。19 年度から国内ブロック紙の充実に努めているが、あわせて全国地方紙の充実を行い、好評を得ている。

21 年度緊急雇用創出事業基金事業として、「名古屋タイムズ」のアーカイブ化を行った。「名古屋タイムズ」アーカイブ化事業は、14 年度に創刊号（昭和 21 年）から 13 年末までの刊行分を対象に行ったが、それ以降に刊行された部分については未着手となっており、作成が強く望まれていた。

今回の事業は、14 年１月から終刊となった 20 年 10 月までの間の刊行分を対象として行うもので、所蔵する原紙版をマイクロフィルムに撮影し、ＴＩＦＦ形式とＰＤＦ形式に変換してＣＤ−Ｒに保存するものである。閲覧にはＰＤＦ形式を用い、前回の検索方法と同一の構造として、創刊号から終刊号まで年代によって違和感を感じることなく閲覧できるようにした。22 年３月から閲覧に供している。

(4) ＡＶ資料の収集状況

21 年度は映像資料 360 点と録音資料 401 点を受け入れた。内訳は、ＤＶＤ344 点、ビデオテープ 16 点、ＣＤ401 点であり、購入と寄贈の別では、購入 573 点、寄贈 188 点である。録音資料では、演芸、文学及び以前から要望の多かった講演などの資料の充実を図った。映像資料では、比較的所蔵が少なかった演劇等の分野の充実を図った。

4　図書館サポーター

(1) おはなし会

21 年度におはなし会のサポーターとして登録された方は 17 名で、毎月第 1 日曜日と第 3 土曜日及び夏休みのおはなし会では、読み聞かせや紙芝居、手遊びなどを行っていただいた。

(2) 資料補修

破損・汚損した図書の補修を行う資料補修サポーターには、2 名の方が登録していただいた。活動日を水曜日に決め、破損した表紙の補修をしてブックカバーをかける作業を中心に行っていただいた。

5　県内図書館の動向

21 年 10 月 1 日には清須市と春日町が合併した。また、22 年 3 月 22 日に、七宝町、美和町、甚目寺町の 3 町が合併し、あま市が誕生した。これにより、22 年 3 月 31 日現在、愛知県内の市町村は 57 となり、図書館設置市町村は 50（34 市 15 町 1 村）、未設置市町村は 7（1 市 5 町 1 村）で、図書館設置率は 87%となった。県内市町村立のすべての公立図書館がＡｉｃｈｉ・ＬＬネットに登録している。

21 年 4 月から、蒲郡市立図書館、常滑市立図書館、知多市立図書館、高浜市立図書館の 4 館で指定管理者制度を導入し、先に導入している新城図書館、幸田町立図書館、江南市立図書館、津島市立図書館、あま市美和図書館を加え、県内で指定管理者制度を導入している図書館は 9 館となった。

6　県図書館団体の動向

(1) 愛知県公立図書館長協議会

20 年に設置された「ヤングアダルトサービス連絡会」は、21 年度総会を 7 月 16 日に岡崎市で開催した。総会では情報リテラシー事例報告を神奈川県立図書館の髙田淳子氏を講師に招いて行った。その後、参加者による情報交換が行われた。4 月からはインターネットを利用した情報交換の場として「ＹＡ掲示板」の運用を開始した。また、「ＹＡ向け図書館活用リーフレット」の検討を行っている。

平成 21 年度に愛知県公立図書館長協議会の実施した研修は次のとおりであった。

第 1 回　「私の考える図書館像－地域に根ざした図書館－」講師：渡部幹雄氏

第 2 回　「児童サービスの豊かさ」愛知図書館協会の児童サービス研修公開講座との共催
講師：黒沢克朗氏

第 3 回　「新しい図書館で新しいサービスの試みを」講師：土本潤氏

第 4 回　「図書館サービスと著作権について」講師：南亮一氏

(2) 愛知図書館協会

愛知図書館協会が実施する研修は連続受講形式で、講義と演習の組み合わせを原則としている。平成 21 年度に実施した研修は次のとおりであった。

ア　児童サービス研修

全 4 回の連続受講形式。うち「児童サービスの豊かさ」講師：黒沢克朗氏を公開講座とした。

イ　レファレンスサービス研修

全 4 回の連続受講形式。うち「レファレンスインタビュー」講師：小田光宏氏を公開講座とした。

ウ　広報研修

「Ｗｏｒｄでチラシを作ろう」講師：伊藤勇吉氏　講義と実技を組み合わせた研修。

エ　IT 研修

愛知淑徳大学の協力を得た、講義と実習を組み合わせた 2 日間の研修。